新・福岡古楽音楽祭

～イタリアン・バロックの栄華～

FUKUOKA EARLY MUSIC FESTIVAL 2015

2015年10月23日(金)－25日(日)

会場：アクロス福岡、あいれふ

主催：新・福岡古楽音楽祭実行委員会、
18世紀音楽祭協会、福岡県、
福岡市、(公財)アクロス福岡、
(公財)福岡市文化芸術振興財団

アクロス福岡 ACROS Fukuoka

2015 新・福岡 古楽 音楽祭 FUKUOKA EARLY MUSIC FESTIVAL

ごあいさつ

皆様、新・福岡古楽音楽祭2015へようこそ。

新生2年目となる今年は、昨年同様イタリアン・バロックをテーマとしましたが時代を約100年くだり、ヴィヴァルディを始めとする弦楽作品を存分にお楽しみいただきたいと思います。

メイン・ゲストとしてイタリアからヴァイオリンの名手、ジュリアーノ・カルミニョーラ氏を、また国内からはチェロの鈴木秀美氏、ヴァイオリンの若松夏美氏をお迎えしています。さらにオランダからは福岡の古楽祭ではお馴染みリコーダーのワルター・ファン・ハウヴェ氏にいらしていただき、トークを交えたコンサートをお願いしました。

福岡の秋は新鮮な魚に加え、もつ鍋、水炊きなどあたたかい鍋物がおいしくなる季節でもあります。アフター・コンサートも含め五感を総動員して福岡の秋を満喫していただければ幸いです。

新・福岡古楽音楽祭実行委員会
委員長　村山　暁

新・福岡古楽音楽祭2015スケジュール

*10/23*金	**マスタークラス**（リコーダー）	13:30－17:30	あいれふ講堂（10F）
	室内楽コンサート「イタリアン・バロックの室内楽 L'Incontro（再会）」	19:00開演	あいれふホール（10F）
*10/24*土	**古楽セミナー**（古楽アンサンブル、合唱）	9:30－16:00	アクロス福岡 円形ホール（1F）、交流ギャラリー（2F）
	マスタークラス（ヴァイオリン、チェロ、フルート、チェンバロ、声楽、リュート、リコーダー）	10:00－16:40	アクロス福岡 練習室ほか
	古楽ステージ《第1部》	14:00－16:00	アクロス福岡 国際会議場（4F）
	ワルター・ファン・ハウヴェ　トークコンサート	17:00開演	アクロス福岡 国際会議場（4F）
*10/25*日	**古楽セミナー**（古楽アンサンブル）	10:30－11:30	アクロス福岡 練習室（地下2F）
	古楽ステージ《第2部》	10:30－13:30	アクロス福岡 コミュニケーションエリア（1F）
	チェンバロ・ワークショップ	11:00－13:30	アクロス福岡 円形ホール（1F）
	ジュリアーノ・カルミニョーラ＆ヴェニス・バロック・オーケストラ	15:00開演	アクロス福岡 シンフォニーホール（1F）

総合受付のご案内

音楽祭期間中、プログラムの配布をしております。
10/23（金）　あいれふホワイエ（10階）　受付時間：13:00－21:00
10/24（土）　円形ホール受付（アクロス福岡1階）　受付時間：9:00－16:00
　　国際会議場（アクロス福岡4階）　受付時間：16:00－18:00
10/25（日）　円形ホール受付（アクロス福岡1階）　受付時間：9:00－14:30

目　　次

コンサート

室内楽コンサート「イタリアン・バロックの室内楽 ～L'Incontro（再会）～」……4
ワルター・ファン・ハウヴェ トークコンサート ～リコーダー演奏の歴史～ ……7
ジュリアーノ・カルミニョーラ＆ヴェニス・バロック・オーケストラ……8

セミナー

マスタークラス……11
古楽セミナー……12
チェンバロ・ワークショップ／交歓パーティー ……13

愛好者ステージ、その他

新・福岡古楽音楽祭2015パネル展「古楽への招待状～時代を彩る音楽～」……13
古楽ステージ《第1部》……14
《第2部》……15

プレコンサート　※好評のうちに終了いたしました。ご来場ありがとうございました。

アクロス・アフタヌーンコンサート vol.14
ドミニク・ヴィス＆ストラディヴァリア
9月16日(水) 14:00 開演
出演：ドミニク・ヴィス（カウンター・テナー）、 高橋美千子（ソプラノ）、ストラディヴァリア（室内楽）

アクロス・ランチタイムコンサート vol.46
新・福岡古楽音楽祭プレコンサート～古楽との出会い～
10月21日(水) 12:00 開演
出演：鈴木秀美（チェロ）、山本徹（チェロ）、上尾直毅（チェンバロ）

室内楽コンサート

イタリアン・バロックの室内楽～L'Incontro（再会）～

10月23日（金）19:00開演　あいれふホール（10F）

プログラム

メールラ　「喜び歌え」
Merula　"Cantate jubilate"

マリーニ　ヴァイオリンソナタ 作品8 -3「ヴァリアータ」イ短調
Marini　Sonata terza in la minore "Variata" op. 8

マック　レ・ファ・ミ・ソによるカプリチョ
Macque　Capricio sopra re fa mi sol

ヴィヴァルディ　チェロ・ソナタ 変ロ長調
Vivaldi　Cello sonata in Si bemol maggiore RV. 46
1. Largo
2. Allegro
3. Largo
4. Allegro

休憩

ストラーチェ　パッサカリア イ短調
Storace　Passacaglia in la minore

ヴェラチーニ　ヴァイオリンソナタ（ソナタ・アカデミケ）作品2–12 ト短調
Veracini　Sonate Accademiche op. 2-12 sol minore
1. Passagallo(Largo assai) – Andante
2. Capriccio chromatico con due saggetti
3. Adagio
4. Ciaccona(Allegro ma non Presto)

ジェミニアーニ　チェロ・ソナタ ニ短調 作品5–2
Geminiani　Cello sonata in re minore op. 5-2
1. Andante
2. Presto
3. Adagio
4. Allegro

ヴィヴァルディ　「愛しい顔から離れれば」
Vivaldi　"Lungi dal vago volto" RV. 680
1. Recitativo
2. Aria Largo
3. Recitativo
4. Aria Allegro

※諸事情により記載内容が変更になることがありますので予めご了承ください。

出演者プロフィール

ヴァイオリン
若松 夏美　*Natsumi Wakamatsu*

仙台市出身。桐朋学園高校及び同大学音楽学部卒、研究科修了。ヴァイオリンを鷲見三郎氏、江藤俊哉氏に師事。82年デン・ハーグ王立音楽院に留学。バロック・ヴァイオリンをS・クイケン氏に師事。85年演奏家ディプロマを得て同校を卒業。ラ・プティット・バンド、18世紀オーケストラなどのオーケストラのメンバーとして数々の演奏会、録音に参加した。現在、バッハ・コレギウム・ジャパン、オーケストラ・リベラ・クラシカのコンサート・マスター。18世紀オーケストラ（オランダ）のメンバー。BISおよびTDKアルテ・デラルコにモーツァルト、ハイドン、ボッケリーニの室内楽、協奏曲など録音。東京芸術大学古楽科非常勤講師。

ソプラノ
鈴木 美登里　*Midori Suzuki*

京都市立芸術大学声楽科大学院終了後、兵庫県芸術文化海外留学助成金を受けオランダに留学。グレゴリオ聖歌からバロック期に至る古楽声楽とアンサンブルをDr.レベッカ・スチュワート、マックス・ファン・エグモントの各師に学ぶ。留学中より国内外の古楽グループのソリストとしてコンサート及びレコーディング活動に参加。2000年に帰国してからは、特に初期バロック期のソロ声楽曲及びマドリガーレの研究に力を注ぎ、コンサートや講習会など積極的な活動を展開している。声楽アンサンブル、ラ・フォンテヴェルデ主宰。

チェロ
鈴木 秀美　*Hidemi Suzuki*

神戸生まれ。チェロを井上頼豊、安田謙一郎ほか、指揮を尾高忠明、秋山和慶の各氏に師事。国内外のコンクールで最高位を獲得、文化庁在外研修員としてデン・ハーグ王立音楽院にてA.ビルスマに師事。DHM（現ソニー）他より数多くのCDを発表。村松賞大賞、文化庁芸術作品賞、芸術祭優秀賞、レコード・アカデミー賞（協奏曲部門）、仏ディアパゾン金賞などを受賞。
F・ブリュッヘン指揮「18世紀オーケストラ」（85-93年）、S・クイケン指揮「ラ・プティット・バンド」（86-01年、92年以降首席奏者）のメンバー。鈴木雅明の主宰する「バッハ・コレギウム・ジャパン」では創立以来首席奏者。94年に新設されたブリュッセル王立音楽院バロック・チェロ科教授を2000年まで務めた。現在、東京芸術大学古楽科非常勤講師。指揮者として各地に客演、2013年より山形交響楽団首席客演指揮者。雑司谷拝鈍亭の終身楽長。2001年に「オーケストラ・リベラ・クラシカ」を結成。自身のレーベル《アルテ・デラルコ》からそのライヴやソロ、室内楽のCDを続々とリリース。第37回サントリー音楽賞、第10回斎藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。著書に「『古楽器』よ、さらば!」（音楽之友社）、「ガット・カフェ」、「無伴奏チェロ組曲」（東京書籍）。

チェンバロ
上尾 直毅　*Naoki Ueo*

東京藝術大学器楽科ピアノ専攻卒業。在学時ピアノを辛島輝治氏、チェンバロを山田貢、鈴木雅明、渡邊順生の各氏に師事。卒業後オランダに渡り、チェンバロをG・レオンハルト、A・アウテンボッシュの両氏に、フォルテピアノをS・ホーホランド氏に師事しそれぞれソリストディプロマを得て卒業。オランダではデン・ハーグ王立音楽院古楽器科の伴奏員、オランダ室内管弦楽団のチェンバロ奏者などを勤めた。現在、日本国内を中心に、「レ・ボレアード」（指揮：寺神戸亮）、「オーケストラ・リベラ・クラシカ」（指揮：鈴木秀美）、声楽アンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」などの古楽オーケストラやアンサンブルで活躍している。桐朋学園大学音楽学部講師。

福岡の皆様、古楽ファンの皆様

久しぶりに福岡の地を踏み、新しく出発した音楽祭に参加できることを心から嬉しく思っております。“L’Incontro（再会）”というタイトルには、もちろん再びここで演奏し多くのファンの皆様にお会いできるという歓びと、古い音楽を演奏することはいつも再会しているようなものであり、その都度新しく美を発見できる嬉しい時であるという意味とを込めたつもりです。

クレモナ生まれのオルガニスト・ヴァイオリニスト、メールラ（Tarquinio Merula, 1594-5〜1665）作曲の《喜び歌え（Cantate jubilate）》は神様を讃美する宗教曲です。有名なヴィヴァルディ（Antonio Vivaldi, 1678〜1741）の《愛しい顔から離れれば（Lungi dal vago volto）》は世俗カンタータで、レチタティーヴォ・ラルゴ・アレグロの3部分から成っています。どちらもヴァイオリンのオブリガートを伴っており、歌とヴァイオリンとの掛け合いも魅力のひとつです。

偶然にもメールラと同い年のマリーニ（Biagio Marini, 1594〜1663）はブレッシア生まれ、ヴェネツィア、ミラノなどイタリア各地の他、ドイツやベルギーでも活躍した人です。1629年に出版されたソナタop.8はヴァイオリンのソロと通奏低音の作品で、低音に乗ってヴァイオリンが装飾的な音型を紡いでいきます。

もう一つのヴァイオリン・ソナタを書いたヴェラチーニ（Francesco Maria Veracini, 1690〜1768）はメールラやマリーニから約1世紀後フィレンツェに生まれたヴァイオリニスト・作曲家です。今日演奏するソナタは1744年に出版された《ソナタ・アカデミケ》と呼ばれるop.2の1曲で、パッサカリアのリズムと半音階が頻出し通奏低音も多くの役割を担う、特徴ある作品です。

ジョヴァンニ・デ・マック（Giovanni de Macque, 1548?〜1615）はローマ及びナポリで活動したベルギー人オルガニスト・作曲家で、ジェズアルド家に雇われていた事もあります。6巻以上のマドリガルなど声楽作品を作曲、《レ・ファ・ミ・ソによるカプリッチォ》は4つの音にまつわって様々な変奏が繰り広げられる鍵盤曲です

さて、ヴィヴァルディのチェロ・ソナタは9曲現存していますが、作曲年は不明です。様々な筆写譜の存在やその事情から、早ければ1710年代に作曲された可能性もありますが、6曲のセットの出版がパリで宣伝されたのは彼が亡くなる1年前の1740年です。彼のソナタは、各楽章が絵画のように様々な情景を想像させますが、ひときわ穏やかに始まる今日のソナタから、皆さんは何を想起されるでしょうか。

もう一つのチェロ・ソナタを作曲したジェミニアーニ（Francesco Geminiani, 1687〜1762）はヴィヴァルディと同じく優れたヴァイオリン奏者で、彼の著した《ヴァイオリン奏法（The Art of Playing on the Violin, London, 1751）》という教則本は今も重要な文献として役立っています。今日のソナタを含む6曲のセットop.5はヴァイオリン以外の楽器のために書かれた珍しい作品で、後に彼自身によってヴァイオリン用にも編曲されています。ヴァイオリニストの音楽だけあってなかなか装飾的・技巧的に出来ており、18世紀中頃までのチェロ作品中、バッハの無伴奏組曲を除けば最も高度な作品の一つといえるでしょう。

音楽や美術、文学など、ヨーロッパの芸術分野において大活躍したイタリア人たちの作品は、汲めども尽きぬ泉のように魅力的です。今日のコンサートでそれが幾らかでもお楽しみいただければ幸いです。

解説：鈴木 秀美

ワルター・ファン・ハウヴェ
トークコンサート ～リコーダー演奏の歴史～

10月24日（土）17:00開演　アクロス福岡 国際会議場（4F）

プログラム

ベリオ　ジェスティ
Berio (1925-2003)　Gesti (1965)

J.S.バッハ　アルマンド
J.S. Bach (1685-1750)　Allemande (~Partita a-moll, BWV1013)

バッサーノ　或る日のスザンヌ
Bassano (1558?-1617)　Susanne ung jour (~O.de Lassus)

佐藤豊彦　ねんにゃこ　ころちゃこ
Toyohiko Satoh (1943-)　Nennyako korochako (2012)

※諸事情により記載内容が変更になることがありますので予めご了承ください。

出演者プロフィール

リコーダー

ワルター・ファン・ハウヴェ
Walter van Hauwe

©studio-mickey.com

デルフト（オランダ）に生まれ、デン・ハーグ王立音楽院でフランス・ブリュッヘン氏にリコーダーを学ぶ。ソリストとしてだけではなく、「クワドロ・オットテール」（1969年）、「リトル・コンソート」（1979年）のメンバーとしても多彩な活動を行ってきた。日本では2001年から2005年にかけて、サイトウ・キネン・フェスティヴァルに招聘され、バロック音楽の音楽監督を行っている。その活動は古楽にとどまらず、現代の作品や即興演奏にもおよび、特にブリュッヘン氏やケース・ブッケ氏と共に始めた実験的アンサンブル「サワー・クリーム」（1971年）は、その斬新な演奏で議論を引き起こした。これらの演奏活動、及び1971年より在職したアムステルダム音楽院での教育活動は、3巻からなる『現代リコーダー教本』を生み、その第1巻は日本語に訳されている。

リュート

佐藤豊彦　*Toyohiko Satoh*

立教大学在学中に皆川達夫氏に学ぶ。1968年に渡欧、スイスのバーゼル・スコラ・カントルムにて、オイゲン・ドンボワ氏に師事する。1970年に世界ではじめてバロック・リュートのソロLPを録音してデビュー。文化庁芸術祭優秀賞・レコードアカデミー賞等を受賞。以来多数のレコード・CDを発売している。アンサンブル「アルバ・ムジカ・きょう」のリーダー。ヨーロッパを中心にソロ、アンサンブル、教育、作曲等の音楽活動を行っている。1973年よりオランダのデン・ハーグ王立音楽院教授を勤める。2000年には「リュート&アーリーギター・ソサエティジャパン」を発足、30年以上にもなるヨーロッパでの経験を日本の古楽界の発展に貢献すべく、活動の重点を日本へ移しつつある。

プログラムノート

リコーダーの演奏言葉を辿る

或る人は「リコーダーはダイナミック・レンジの乏しい楽器だ」と言う。また或る人は「音域も狭いし、音程の正確さにも、表現力にも、加えて柔軟性にも欠ける」と言う。確かに彼らの言う通りである。但し、私は「その半分は」と言わせて貰おう。

音域に関して言うなら、楽器が大きくなるほど音域は狭くなる。例えば、アルトやテナー・リコーダーは最大で3オクターヴ使えるが、バス・リコーダーとなると2オクターヴしかない。しかも中世、ルネサンス、バロック、現代と時代によって微妙に異なるため、面倒この上ないことは確かである。

しかし反面、その面倒なほどの多くの種類のリコーダーは、それに使われる各々異なる運指（指使い）やアーティキュレーション（タンギングなどを含む）などの組み合わせによって、さまざまな性格や、音域、ダイナミックなどの表現力を作り出すことが可能なのである。

例えば、リコーダーには驚くなかれ500種類もの運指がある。リコーダーに吹き込む空気の肺気量の調整や口でのアーティキュレーションのコントロール次第では、それらの運指との相互作用で、各々が異なる音色を生み出すのだ。つまりリコーダーは、正しく扱われるなら、他の多くの楽器と同等の表現力を持っているのである。

私は今日この機会に、これらの曲、或いはその一部分などを演奏しながら、古き良き相棒の佐藤豊彦と一緒に、リコーダーが持っている演奏言葉の可能性を皆さんにデモンストレーションしようと思う。

解説：ワルター・ファン・ハウヴェ
日本語訳：佐藤豊彦

ジュリアーノ・カルミニョーラ&
ヴェニス・バロック・オーケストラ

10月25日（日）15:00開演　アクロス福岡 シンフォニーホール（1F）

プログラム

ヴィヴァルディ　歌劇《オリンピアーデ》より シンフォニア ハ長調 RV 725
VIVALDI　Sinfonia in C major for strings and basso continuo, from “L’Olimpiade”, RV 725
Allegro, Andante, Presto

ガルッピ　4声の協奏曲 第3番 ニ長調
GALUPPI　Concerto a quattro n.3 in D major for strings and basso continuo
Maestoso, Allegro, Andantino

マルチェッロ　弦楽のための協奏曲集《ラ・チェトラ》より 第4番 ホ短調
MARCELLO　Concerto in E minor n.4 for strings and basso continuo from “La cetra”
Moderato, Largo appoggiato, Allegro

ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ヘ長調「聖ロレンツォの祝日のために」RV 286
VIVALDI　Concerto in F major for violin, strings and basso continuo, “Per la solennità di San Lorenzo”, RV 286　Largo molto e spiccato- Andante molto, Largo, Allegro non molto

ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 RV 281
VIVALDI　Concerto in E minor for violin, strings and basso continuo, RV 281　Allegro, Largo, Allegro

休憩

ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ハ長調 RV 187
VIVALDI　Concerto in C major for violin, strings and basso continuo, RV187　Allegro, Largo ma non molto, Allegro

ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ヘ長調 RV 283
VIVALDI　Concerto in F major, for violin, strings and basso continuo, RV 283　Allegro, Largo e spiccato, Allegro

ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 RV 232
VIVALDI　Concerto in D major, for violin, strings and basso continuo, RV 232　Allegro, Largo, Allegro

出演者プロフィール

ヴェニス・バロック・オーケストラ
Venice Baroque Orchestra

1997年、アンドレーア・マルコンにより結成された。現在ヨーロッパ屈指の古楽器オーケストラとして、欧米を中心にコンサートとオペラの演奏で高い評価を受けている。カルミニョーラとは結成以来、多くの公演を重ねてきたが、ほかにもチェチーリア・バルトリ（コルトーナのトスカーナ太陽音楽祭ほか）、アンナ・ネトレプコとのペルゴレージ・プロジェクト（ウィーン・ムジークフェラインほか）、メゾ・ソプラノのマグダレーナ・コジェナー（ヘンデル・アリア・プログラムを主要都市で）などのソリストたちとも頻繁に共演。ザルツブルク音楽祭をはじめ多くの音楽祭に招かれている。レコーディングは、ドイツ・グラモフォンと専属契約を結び、発売されたCDは世界中で絶賛され数々の賞を獲得している。

©Anna Carmignola

バロック・ヴァイオリン

ジュリアーノ・カルミニョーラ

Giuliano Carmignola

イタリアのトレヴィーゾ生まれ。ミルシテイン、グッリ、シェリングなどに師事。有名コンサートホールでアバド、インバル、シノーポリ、ミケランジェリなどと共演し、ソリストとしての地歩を固める。バロック・ヴァイオリンのソリストとしては、特にイタリア・バロック作品の最も秀でた演奏者として最高の評価を受けている。マルコン、ホグウッド、ブリュッヘン、ベザイデンホウトと共演。エラート、ディヴォックス・アンティクァ、ソニーで録音を行い、現在はドイツ・グラモフォンと専属契約を結んでいる。リリースされたCDはディアパゾン・ドール、ショック・デュ・モンドなど多くの重要な賞を獲得している。現在、シエナのキジアーナ音楽アカデミーとルツェルン音楽大学で後進の指導にあたっている。また、アカデミア・フィラルモニカ・ディ・ボローニャとサンタ・チェチーリア・アカデミー会員に選出された。最新のディスクはコンチェルト・ケルンと平崎真弓と共演したJ.S.バッハのヴァイオリン協奏曲集（ARCHIV）。

プログラムノート

イタリアの北東部、アドリア海に浮かぶヴェネツィア。現在のような海にかけられた橋も、空港も無かった18世紀、ヨーロッパ本土からこの都市を訪れるには水路によるしかなかった。パドヴァの町にたどり着いたイギリスやフランス、ドイツからの旅人たちは、ブルッキエッロと呼ばれる船でブレンタ川を下り、海との合流地点に広がるラグーナ（潟）を目指す。ここは、「アドリア海の真珠」とも称された水上の都。

無数の島と水路からなるヴェネツィアは、町の中を移動するのにもゴンドラと呼ばれる船を用いる。両岸には貴族の館が立ち並び、パラッツォ・ドゥカーレ（元首官邸）や、サン・マルコ大聖堂も船上から見ることができる。18世紀のヨーロッパの人々にとってヴェネツィアは、一生に一度は訪れたい憧れの場所であった。訪問者の目的は、観光だけではなく、当時ヨーロッパの中でも最高のレベルにあった音楽を聴くことにもあった。18世紀初頭、ヴェネツィアには十数軒ものオペラ劇場が立ち並び、シーズンごとに新しい作品が上演された。

ヴィヴァルディ　歌劇《オリンピアーデ》より シンフォニア ハ長調

オリンピアーデは1734年ヴェネツィアで初演された。後に交響曲に発展していくシンフォニアは、18世紀初頭のイタリアのオペラで用いられた序曲の形式。急緩急の三つの部分からなる。

ガルッピ　4声の協奏曲 第3番 ニ長調

ヴェネツィアのラグーナの一つブラーノ島に生まれたため、「イル・ブラネッロ」というあだ名で呼ばれたバルダッサーレ・ガルッピ（Baldassare Galuppi, 1706年-1785年）は、生涯のほとんどをヴェネツィアで過ごした。オペラ作曲家として著名であったが、宗教曲、器楽曲など、作品は多種に及ぶ。

マルチェッロ　弦楽のための協奏曲集《ラ・チェトラ》より 第4番 ホ短調

アレッサンドロ・マルチェッロ（Alessandro Marcello, 1669-1747年）はヴェネツィアの貴族。数学者、哲学者、音楽家でもあった。特に音楽の才能には秀でたものがあり、当時から一流の作曲家として認められていた。

ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ヘ長調「聖ロレンツォの祝日のために」

聖ロレンツォは3世紀、古代ローマ時代のキリスト教の聖人。殉教した8月10日は記念日として祝われる。

ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 RV 281
ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ハ長調 RV 187
ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ヘ長調 RV 283
ヴィヴァルディ　ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 RV 232

ヴェネツィアには18世紀当時、捨て子の養育を目的に建てられた四つの慈善院があり、才能のある女児は、音楽の教育を受けることができた。女児たちの演奏は、人気が高く、ヴェネツィアを訪れた人々は必ずと言って良いほど彼女らのコンサートに足を運んだ。

その中の一つ、ピエタ慈善院付属音楽院で、1703年より、ヴァイオリン教師の職を務めたのが「イル・プレーテ・ロッソ（赤毛の司祭）」と呼ばれた「アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ（Antonio Lucio Vivaldi, 1678年-1741年）」である。後に、ヴァイオリニストとして、オペラ作曲家としてヨーロッパ各地に招かれるほどの高い名声を得たヴィヴァルディだったが、教師の職を辞した後も、ほぼ生涯にわたって、この女児合奏団のための作品を書き続けるなど、500を超える協奏曲を残した。

ホ短調 RV 281とヘ長調 RV 283は1720年、ハ長調 RV 187は1735年ごろの作品。ニ長調 RV 232は作曲年不明。いずれもヴィヴァルディの死後に出版された。

解説：岩田 耕作

カルミニョーラとバロック・ヴァイオリンの魅力に迫る！

カルミニョーラの美しい右手

マエストロ・カルミニョーラが世界的に高い評価を受けている理由のひとつに、ボウイング（運弓法 / 弓使い）の素晴らしさがあります。英語で弓はbow、これにingが付いてbowingです。

ヴァイオリンを美しく奏でる極意は、ボウイングにあると言われます。弦楽器を学ぶ人々にとって、理想的なボウイングを体得することはとても重要であり、右手首の動きにすべてがかかっていると言っても過言ではありません。

カルミニョーラが演奏するヴァイオリンはピリオド楽器（楽曲が作曲された当時の様式をもった楽器）ですから、弓もバロック・ボウを使用しています。アーチェリーや和弓のような形をしており、モダン・ヴァイオリン用の弓と比べると一目瞭然、ソリ方が逆であることに気付きます。持ち方もモダンの弓とは大きく異なります。モダン弓は、一番下の部分を掴んで演奏しますが、バロック弓は、下部分より5センチ程度上の部分（まさに棒しかない!?）を掴んで演奏します（写真をご参照ください）。最初、だれでも「これでは弾けるわけがない!」と感じるものです。

カルミニョーラがバロック・ヴァイオリンを弾き始めた当時、そのパフォーマンスは、欧州音楽界、特に古楽シーンにもの凄い衝撃を与えました。それまでの古楽奏法は、ヴァイオリン本体から弓をあまり離さず弾くのが一般的でした。見た目には、なでるような弾き方です。ところが、カルミニョーラはヴァイオリン本体と弓の距離を置く、つまり高い位置から右腕を振り下ろすように弾くのです。弓を持つ位置もさらに中央寄りです。このスタイルで楽器本体の指板（黒い部分）と駒の間に弓を確実にヒットさせるのはとても高い技術を必要とします。フォルテッシモでの激しいアタック、反対にピアニッシモでは羽毛のようにやわらかく弦に触れる技、このダイナミクス・コントロールは世界トップと言えます。ヴァイオリニスト誰でもが出来る技ではありません。

カルミニョーラの実演を初めてご覧になる方は、どうぞ、カルミニョーラの右手首をじっくり注視してください。もちろんカルミニョーラがヴァイオリンを弾く姿勢、そのからだ全体の所作のカッコよさを眺めるのも結構ですが、彼の右手首の動き、弓の返しに一時でも集中してみてください。そのしなやかさと言ったら…、もう溜息が出るほど美しいものです。

カルミニョーラの弓

再び、カルミニョーラの写真（9ページ）をご覧ください。弓の長さが長〜い感じがしませんか…？　そうなんです。古楽奏者が使用するバロック・ボウ（弓）の長さは、71.5センチ前後が一般的なのですが、カルミニョーラが使っている弓は、74.5センチもあります。

バロック・ボウは特に先端部分に様々な形状があり、長さもいろいろです。タイプ別に作曲家の名前が付けられているものが多く、例えば、コレッリ・ボウ→64センチ程度の長さ、タルティーニ・ボウ→71〜72センチ、といったぐあいです。タルティーニ・ボウが最もポピュラーで多くの演奏家が使用しています。

古楽器の専門店に行くと、「カルミニョーラ・ボウ」という弓が商品化されています。現在活躍しているヴァイオリニストの名前が付いた弓があるなんて、とても凄いことのように思います。

自らの名前が付いた弓を自在に操り、ヴィヴァルディを自分の音楽として表現するカルミニョーラの至芸。見ていて鳥肌が立つほどほれぼれするボウイング。世界中のどのヴァイオリニストよりも美しく、他者をまったく寄せ付けない凄みすら感じさせます。

弓は時代とともに変化しました。特に先端部分の形状は大きく変わっています。一番上は、バロック初期、一番下は古典派作品用です。現代の弓に近くなっているのがわかります。

上から順にコレッリ・ボウ、タルティーニ・ボウ、カルミニョーラ・ボウ

写真提供：ムジカアンティカ湘南

【資料提供：アレグロミュージック】

マスタークラス

聴講無料（総合受付で申込が必要）

10月23日（金）13:30〜17:30　あいれふ講堂（10F）
10月24日（土）10:00〜16:40　アクロス福岡 練習室①〜⑤（地下2F）・セミナー室①（2F）

講師のテクニックや独自の教授法を間近で見学することができる公開レッスンです。今回は、全７コース開講しています。

講師

ワルター・ファン・ハウヴェ（リコーダー）
鈴木美登里（声楽）
若松夏美（ヴァイオリン）
鈴木秀美（チェロ）
佐藤豊彦（リュート）
上尾直毅（チェンバロ）

※上記講師のプロフィールは5ページ及び7ページをご参照ください。

前田りり子（フルート）　*Liliko Maeda*

モダン・フルートを小出信也氏に師事。高校２年の時、全日本学生音楽コンクール西日本大会フルート部門１位入賞。その後バロック・フルートに転向し桐朋学園大学古楽器科に進学。オランダのデン・ハーグ王立音楽院の大学院修了。有田正広、バルトルド・クイケンの両氏に師事。1996年、山梨古楽コンクールにて第１位入賞し、1999年、ブルージュ国際古楽コンクールで２位入賞（フルートでは最高位）。バッハ・コレギウム・ジャパン、ラ・フェート・ギャラント、オーケストラ・リベラ・クラシカ、ソフィオ・アルモニコなど、各種演奏団体のメンバーとして演奏・レコーディング活動をしているほか、日本各地でしばしばリサイタルや室内楽コンサートを行っている。また2006年には単行本「フルートの肖像」を東京書籍より出版し、執筆活動にも力を入れている。現在、東京芸術大学、上野学園大学非常勤講師。

スケジュール

10月23日（金）　会場：あいれふ

	あいれふ講堂
13:30–14:25	リコーダー 瀬部香織
14:30–15:25	リコーダー 山田夕子
15:35–16:30	リコーダー 原田都惠
16:35–17:30	リコーダー 山本百合子

10月24日（土）　会場：アクロス福岡

	練習室1	練習室2	練習室3	練習室4	練習室5	セミナー室1
10:00–10:55	ヴァイオリン 大河内淳一	リコーダー 宮本修	チェンバロ 西野晟一朗	フルート 吉岡充弘		声楽 田中千佳
11:00–11:55	ヴァイオリン 林内美織			フルート 福嶋聡	チェロ 明石拓爾	声楽 峯本大地
13:45–14:40	ヴァイオリン 亀之原祐介	リコーダー 南方佳子	チェンバロ 川末矢江子	フルート 土田ふみ 藤原みか	チェロ 枝澤洋行	声楽 小森直美
14:45–15:40	ヴァイオリン 廣末真也	リュート 山本浩二	チェンバロ 中野洋子	フルート 白石嘉毅		声楽 森山紀子
15:45–16:40		チェロ 為国健太	チェンバロ 山田尚子			声楽 新名美和

聴講の申込方法とご注意

上記の講座は、どなたでも聴講頂けます。但し当日の受付が必要です。
下記御一読の上、総合受付へお越しください。

【申込み方法】
1. 総合受付で 、聴講申込み手続きの上、名札とアンケートを受け取ってください。
2. 受付時間は、23日13:00〜／24日9:15〜です。
3. 該当の部屋へお越しください。会場の入室は５分前より可能です。スタッフの指示に従って行動してください。
4. セミナー会場では名札を必ず着けておいてください。後ほど申込票との照合を行いますので、お手数ですが、各会場でも必ず提示をお願い致します。
5. 聴講終了後は、アンケートと名札を返却ください。

【注意】
◎定員に達し次第、受付は終了します。
◎部屋のサイズや受講生数により、聴講生の受付人数が異なります。
1. 会場内での飲食、蓋の無い飲み物の持ち込みは厳禁です。
2. 入室前に携帯電話をマナーモード又は電源オフに設定してください。
3. 講義の撮影・録音は厳禁です。
4. セミナー会場以外のフロア・部屋等への入室は御遠慮下さい。
5. １クラス55分間です。この間、レッスンの妨げとなるため、入退出はできません。予めご了承ください。
6. セミナーでは記録用に写真・ビデオ撮影を行う場合がありますので、ご了承下さい。

総合受付のご案内

受講生・聴講生受付はこちらにお立ち寄りください。
10/23（金）あいれふホワイエ（10階）13:00－21:00
10/24（土）円形ホール受付（アクロス福岡１階）9:00－16:00／国際会議場（アクロス福岡４階）16:00－18:00
10/25（日）円形ホール受付（アクロス福岡１階）9:00－14:30

古楽セミナー

聴講無料（総合受付で申込が必要）

《合唱》10月24日（土）9:30～16:00　アクロス福岡 交流ギャラリー（2F）

《古楽アンサンブル》10月24日（土）9:30～16:00　アクロス福岡 円形ホール（1F）
10月25日（日）10:30～11:30　アクロス福岡 練習室①（地下2F）

《合唱》

講師

安積 道也

Michiya Azumi

シュトゥットガルトおよびフライブルク国立音楽大学にて教会音楽科A課程ならびに大学院指揮科を最優秀で修了。ドイツ国家資格教会音楽家最高位（A級カントール）取得。2004年第1回バイロイト・レーゲンスブルク合唱指揮者コンクール優勝。在独中ギュンタースタール聖マリア教会音楽監督、ドイツ・フランス合唱団常任指揮者を兼任。合唱指揮をM.シュルト=イェンセン、オルガンをH.ドイチュに師事。2009年西南学院音楽主事/オルガニストに就任。ダイデスハイム（ドイツ）合唱指揮講習会講師。日本合唱連盟合唱コンクール審査員。西南学院オラトリオ・アカデミー常任指揮者、キリスト教礼拝音楽学会理事、エリザベト音楽大学非常勤講師。

課題曲

アヴェ・マリア（3曲）
①グレゴリオ聖歌*待降節第4主日の奉献唱より
②William Byrd
③Grzegorz Gerwazy Gorczycki

参加者名およびパート

ソプラノ　石橋ゆつき、井上知佳、片山由紀、田上朝子、横尾敦子、梅津朋子、加賀田沙織、東須賀子、川添千佳子、横田恵子、高橋彰子、白水今日子、松村芽依
アルト　早川あいこ、上村美紀、山﨑慎子、田中美穂子、奥弘子、加賀美弥子、堺亜希子、永原美佐、松村抄子、寺坂亜紀、平井佐和子、岩熊真由美、奥山由里、山本洋子
テノール　宮原淳、鶴羽蓉平、田中寿郎、梅津教孝
バス　松村俊哉、滑川博信、小郷慎太郎、柳裕哉

《古楽アンサンブル》

講師

©studio-mickey.com

岩田耕作

Kousaku Iwata

福岡県飯塚市出身。6歳のときに失明。筑波大学付属盲学校高等部音楽科を卒業後ヨーロッパに留学。ブリュッセル王立音楽院にてチェンバロと室内楽のプルミエ・プリ、ストラスブール音楽院にてチェンバロと作曲法の金賞を受賞。チェンバロを小林道夫、橋本ひろ、アリーン・ジルヴェライヒ、チェンバロとオルガンをロベール・コーネン、通奏低音とオルガンをマルタン・ジェステール、作曲法をオディール・シャルベ、マルク・アンドレの各氏に師事。チェンバロ、ピアノ、リュート、ハープなどの演奏の他、作曲、古楽に関するレクチャー・コンサート用プログラムノートの執筆など、幅広い分野で活動。ヨーロッパの伝統的な音楽の研究とともに、これからの音楽のあり方についてさまざまな試みを行っている。現在福岡を拠点に、演奏活動、作曲、レッスンなどを行っている。ハルモニー・セレスト代表。

課題曲

オペラ・バレー「ヴェニスの謝肉祭」より（アンドレ・カンプラ作曲）

参加者名およびパート

【器楽】
リコーダー　野田よう子、小阪和子
フルート　藤原みか
オーボエ　大喜多陽子
リュート　宮園智子
ヴァイオリン　岩田悠花、樫原典子、廣末真也、亀之原佑介
チェロ　白濱茂樹、為国健太、中嶋卓
ヴィオラ・ダ・ガンバ　白濱美佐子、城輝昭
パーカッション　阿部等
【声楽】
中山美智子、田中美和子、中原典子、酒井寿喜、藤原佐保子、富山直美、市橋なぎさ、高嶋みゆき、長野公宣、岩重健一

総合受付のご案内

聴講希望者は、こちらでお申込みください。
10/24（土）円形ホール受付（アクロス福岡1階）9:00－16:00／国際会議場（アクロス福岡4階）16:00－18:00
10/25（日）円形ホール受付（アクロス福岡1階）9:00－14:30

チェンバロ・ワークショップ

はじめてのチェンバロ体験！チェンバロの音色に触れてみよう♪

10月25日（日）11:00〜13:30　アクロス福岡 円形ホール（1F）

チェンバロを近くで観たことはありますか？ チェンバロについて解説を聞いた後、初めてチェンバロに触れる受講生たちの反応をご覧ください。質問タイムもご用意していますよ！

講師

山本香代子　*Kayoko Yamamoto*

©studio-mickey.com

福岡女学院高校音楽科卒業。桐朋学園大学古楽器科チェンバロ専攻卒業。フランス国立ストラスブール音楽院をハイディプロマを得て首席卒業。チェンバロをアリーン・ジルベラーシュ、ティリー・メダー、有田千代子、通奏低音をマルタン・ジェステール、室内楽を故・鍋島元子、有田正広 他 各氏に師事。2010年まで活水女子大学音楽学部非常勤講師を勤める。 久留米市在住。

受講生

亀井小瑚（小3）、森山美希（小3）、亀井うた（小6）、堀文佳（中1）、楠見健太郎（中2）、山口真知香（中2）、野口奈央（中3）、北津留美月（高1）、
染井寿子、林田一枝、松山朋美、三家育子、矢房加奈子

交歓パーティー

10月24日（土）12:00〜13:30　ブッフェ グランチャイナ天神店（アクロス福岡 地下2F）

※参加受付は終了しました。当日の受付はございませんのでご了承ください

新・福岡古楽音楽祭の出演者（参加者）や古楽セミナーの講師の先生方とご一緒にプロ・アマを超えて古楽をサカナに語らいましょう。

新・福岡古楽音楽祭2015パネル展

古楽への招待状〜時代を彩る音楽〜

10月12日（月・祝）〜10月25日（日）　10:00〜18:00（最終日17:00まで）

アクロス福岡コミュニケーションエリア（1F）

ひと言で「古楽」と言っても、生まれた国や時代、演奏された目的やスタイルなど様々です。今回はルネサンス時代からバロック時代にしぼり、楽器や絵画を交えながら、歴史に華を添えた作曲家にスポットを当てます。

古楽ステージ

鑑賞無料

《第1部》10月24日（土）14:00〜16:00　アクロス福岡 国際会議場（4F）
《第2部》10月25日（日）10:30〜13:30　アクロス福岡 コミュニケーションエリア（1F）

日頃から研鑽を積んでいる、古楽愛好家によるリレーコンサートです。独奏、アンサンブル、合唱、ダンスなど、様々なジャンルをお楽しみください。各日のトリは古楽セミナー受講生による成果発表ステージです。どうぞお楽しみに！

《第1部》

福岡リコーダーオーケストラ

Canale「Canzon “La Canobbia”」
Bonelli「Toccata “Athalanta”」

梶原ゆみ子・川副こずえ・来嶋紀美子・坂本葉子・清水千枝子・下岸尚子・下平律子・城幸代・杉山あけみ・多田なおみ・中谷千恵・野上幸子・坊野洋子・本田京子・松木真一郎・山本クミ・脇道典・脇ユリ子・河野妙子（リコーダー）
指導・指揮：小池 宏明

NHK福岡文化センターの受講生を中心に結成し約10年が経ちました。今回は小池先生発掘のおそらく2曲ともに本邦初演であると思われる16世紀末の北イタリアの8声部の音楽に挑戦です。（福岡県）

コンヴィヴィオ・ムジカーレ

スヴェーリンク「わが青春はすでに過ぎ去り」

荒巻純子・内屋敷律子・白濱美佐子・須藤千津子（リコーダー）

コンヴィヴィオ・ムジカーレ（「音楽の宴」）は2006年に結成されたリコーダーコンソートです。古楽器としてのリコーダーの魅力を楽しみながら練習を重ねてきました。年を重ねるように一歩ずつ大人の音楽に近づけるように演奏できればと思っています。（大分県）

シルク

Castello「Sonata Prima」

瀬部香織（リコーダー）、坂田ますみ（チェンバロ）

こんにちは、笛と鍵盤のデュオ、シルクです。現在は福岡と三重に離れて住んでいますが、定期的に時間をとって一緒に練習を重ねています。今日は、昨年の古楽祭でレッスンを受けた曲を演奏します。緊張でいっぱいですが、少しでものびやかな演奏を目指します。（福岡県）

コンソート出島

クレマン・ジャヌカン「鳥の歌」より

大島早苗・栗林節子・沢水久美・篠原純子・末岡玲子・竹尾暢美・田川文子・徳永靖子・藤島希志子・藤本聡子・松尾光子（リコーダー）

西洋音楽発祥の地からリコーダーアンサンブルが途絶えてはいけないという小池先生の熱い思いに支えられ、メンバー一同古楽祭出場を目標に練習に励んできました。今回の曲「鳥の歌」はパートの掛け合いがとても楽しい曲です。どこからか？鳥の鳴き声が聞こえてくるはず…そんな演奏ができればと思います。（長崎県）

福岡バロックダンスの会

群舞のパヴァーヌ
パヴァーヌ「我が美しき想い人」、「バッサ・ダンツァ・ヴェヌス」、「馬のブランル」

伊藤美子・平島恵子・加藤隆明・佐藤美佳・大田黒ありさ（バロックダンス）

日本に初めてヒストリカルダンス（ルネサンス・バロック・ロココ期に実際に踊られていた舞曲の総称）を紹介し指導もされたエヴァ・カンピアヌ女史に師事し、現在は福岡でバレエ研究所を率いる古賀穂南美・彌吉清孝先生のもと、今に残る舞曲を復元したダンスを、指導していただいております。（福岡県）

宮本 修

テレマン「無伴奏フルートのためのファンタジー7番」他

宮本 修（リコーダー）

今回は唖然とする曲をやろうと思います。チャレンジ精神だけでもかって下さい。（熊本県）

リコーダートリオ リラ

J.S.Bach「ト短調フーガ」
Hook「トリオ ソナタ IV」

副島香代子（ソプラノリコーダー）、島田教子（アルトリコーダー）、松本由美子（テナーリコーダー）

結成して13年、図書館や幼稚園など福岡を中心に活動しています。（福岡県）

学びすと春日リコーダーアンサンブル

Robert「The Temporiser」
「The Witty Wanton」

中西直子（ソプラノリコーダー）、安成時恵・田中由美子・小井塚まどか（アルトリコーダー）、吉村純子・岩城由美子・前田陵子（テナーリコーダー）、古賀俊郎・来嶋信隆（バスリコーダー）
講師：小池宏明

心地よいハーモニーを目指して、リコーダーを奏でたいと思い練習しています。（福岡県）

山田夕子

ヴィヴァルディ「ソナタg–moll」

山田夕子（リコーダー）、山本香代子（チェンバロ）

今年も大阪府より参加します。今春、ヴァチカン図書館のデジタルアーカイブに触れたことも契機とし、今年のテーマは「ヒルデガルド・フォン・ビンゲン」と「聖母マリア」。そこで、聖書の記述にちなんだ副題の作品を選びました。（大阪府）

オルケスタ・デ・ピコ

バード「4声のファンタジア」
ワルター「3声のカノン」

赤木裕子・内屋敷律子・片小田秀幸・白濱茂樹・白濱美佐子・須藤千津子・寺園喜基・中野真澄・野村明告（リコーダー）
指揮：大坪由香

結成13年目ながら円熟の域に達したと誰も言わない永遠の発展途上楽団です。巨匠大坪由香先生に指導を仰いでいることだけを誇りに、寄る年波を乗り越えて美しい響きを追及しています。バードは今なお敬愛されるブリタニア音楽の父、ワルターは宗教改革時代のルーテル派の作曲家。二人のポリフォニーをどう演奏しましょうか。（福岡県）

新・福岡古楽音楽祭2015合唱団

3つのアヴェ・マリア
①グレゴリオ聖歌
　待降節第4主日の奉献唱より
②William Byrd
③Grzegorz Gerwazy Gorczycki

石橋ゆつき・井上知佳・片山由紀・田上朝子・横尾敦子・梅津朋子・加賀田沙織・東須賀子・川添千佳子・横田恵子・高橋彰子・白水今日子・松村芽依（ソプラノ）、早川あいこ・上村美紀・山﨑慎子・田中美穂子・奥弘子・加賀美弥子・堺亜希子・永原美佐（アルトⅠ）、松村抄子・寺坂亜紀・平井佐和子・岩熊真由美・奥山由里・山本洋子（アルトⅡ）、鶴羽蓉平・田中寿郎・梅津教孝・宮原淳（テノール）、松村俊哉・滑川博信・小郷慎太郎、柳裕哉（バス）
指揮：安積道也

今日のセミナーに全国から集い、短時間ながらも共に音楽を作り上げた仲間たちによる、受講発表演奏です。どうぞご期待ください。

《第２部》

MMmadrigalists

マントヴァーノ「リールム・ビリリールム」
パレストリーナ「今日キリストはお生まれになった」

村山文子、森山紀子、稲永恵子、松村抄子、澄川政博、森山芳雄、松村俊哉、村山暁

在福の合唱団有志による声楽アンサンブル。イニシャルＭ揃いの３組の夫婦に新メンバーを加えたスペシャルメンバーです。（福岡県）

枝澤 洋行

C.P.E.バッハ「無伴奏ソナタ 第1, 2楽章」

枝澤洋行（ピッコロ・チェロ）

フルートの曲をチェロで弾いてみます。どんな感じになるでしょうか。５弦のピッコロ・チェロでの演奏です。原曲は無伴奏フルートソナタWq.132です。（兵庫県）

西野 晟一朗

J.S.バッハ「イタリア協奏曲BWV971」

西野 晟一朗（チェンバロ）

福岡古楽祭時代から含めて６回目の出演となります。これまでの一つの集大成のような演奏ができたらと思います。（東京都）

Die Zauberblockfloeten

トリオソナタ

柿本春香、安江桜子、渡辺浩行（リコーダー）

2006年から福岡古楽音楽祭に参加し今年で９回目となります。通常は浜松、大阪、北九州で活動している為、古楽祭の時のみ集える我がアンサンブル、今年はどんな音楽が出来るでしょう。（大阪府）

河本 基實

Demachy「Prélude, Allemande, Courante（第１組曲から）」

河本基實（ヴィオラ・ダ・ガンバ）

小国古楽祭の始まりのころガンバを始めました。小国、福岡の古楽祭などでバロック、ルネサンスの音楽を勉強させていただいてきています。（山口県）

あくたリコーダーアンサンブル

Tsuneyoshi SAITOU「4 Tableaux」

河村武重・原禎恭・河野智美・寺崎千香子・山本クミ（リコーダー）

第一回小国古楽音楽祭からの連続出演です。毎年秋の音楽祭参加を目標に、ルネッサンスから現代曲まで幅広く、週一回の練習と年数回の呑み会を重ねています。興味がおありな方は、是非お声掛け下さい。（福岡県）

飯塚コスモスコモン少年少女合唱団

ヴィヴァルディ「グローリア」より

東内紀子、石田夏菜、城光菜子、平野真結子、木村世璃音、桑名佑季、二見純誠、樋口若葉、石田結羽、梶原藍花、桑名紗季、坂田マリア、神宮稚与、山本暖人、和田杏彩、岩田耕作（チェンバロ）、長野公宣（指揮）

少学２年生から高校３年生まで15人で活動しています。おもな活動は、６月の筑豊合唱祭、８月の定期演奏会、12月のクリスマスコンサートや、地域の慰問コンサートなどです。12月20日にイイヅカコスモスコモンでオーケストラをバックにコンサートを行います。ぜひ、おこしください。（福岡県）

芳賀 史江

カッチーニ「甘いため息」
モンテヴェルディ「苦しみが甘美なものならば」

芳賀史江（歌）、岩田耕作（リュート）

苦しい時、悲しい時にいつもそばにいて助けてくれた歌を、これからも自分のために歌っていきたいと思います。（福岡県）

城 輝昭、野田 よう子、宮園 智子

Morel「Chaconne en Tiro Sol majeur」

野田よう子（リコーダー）、城 輝昭（ヴィオール）、宮園 智子（リュート）

３人が知り合ったきっかけは、もちろん古楽！ですが、日頃の演奏活動では唱歌も、演歌も、童謡もなんでもマジメに楽しんでいます。今日は本領（たぶん…）の古楽でフランスの曲をマジメに楽しみます。（福岡県）

Duo FUMICA

Boismortier「Sonata TERZA op.47」

藤原みか・土田ふみ（フラウト・トラヴェルソ）

長崎、福岡在住のフラウト・トラヴェルソのデュオです。昨年の新・福岡古楽音楽祭で初参加。今回は２回目の出演となります。今回は、ボワモルティエのソナタに挑戦！伴奏のないトラヴェルソ２本ならではの響きをお楽しみください。（福岡県）

〈講師との共演〉

藤原みか・土田ふみ

クヴァンツ「トリオ ニ長調」

藤原みか・土田ふみ（フラウト・トラヴェルソ）
講師：前田りり子（フラウト・トラヴェルソ）

マスタークラス講師の前田りり子先生と２人の受講生による３重奏です。お楽しみください。

たまの音楽家

フィリドール「Suite Op.1-2」

阿部等・大喜多陽子（ヴォイスフルート）

リコーダーをはじめとした古楽器を中心にしたアンサンブルグループです。一昨年、昨年につづいて２名で参加します。バロックオーボエ、チェンバロなどの他、クルムホルン、ショームなどのルネサンス楽器でもアンサンブルを楽しんでいますが、今年は原点に帰って（？）リコーダーのみで演奏する予定です。（東京都）

スコラ・カントルム・イイヅカ

バード「3声ミサ曲」より
1.グローリア 2.サンクトス

浦上信子・荘田朋子・堤嘉子・樋口公子・濱野久美子（ソプラノ）、村瀬一美・松尾幸子・梅野麗子（アルト）、岡田博文・中村三郎・細江晨也（男声） 指揮：小沼和夫

飯塚の地でルネッサンス・バロック期の合唱曲が歌いたいと、15年前に結成し活動しています。昨年10月にモンテヴェルディ「小宗教曲」シューベルト「ドイツミサ曲」でコンサートを開きました。団員を増やしオーケストラで歌えることを目標に楽しく歌いたいと思います。興味のある方は是非お声掛け下さい。（福岡県）

Grace note

Lassus「Agimus tibi gratias」
Charpentier「Gaudia Virginis Mariae」

伊藤恵子・高嶋みゆき・中原典子（歌）、岩田耕作（チェンバロ）

女性3人のアカペラコーラスグループです。初参加で緊張しますが、今日はいつもご指導頂いている岩田耕作先生にチェンバロを演奏して頂ける事になりましたので、先生に支えて頂きながら、気持ちよく歌えたらいいな♪と思います。（福岡県）

福岡祝祭アンサンブル

アンドレ・カンプラ
オペラ・バレー「ヴェニスの謝肉祭」より

野田よう子・小阪和子（リコーダー）、藤原みか（フルート）、大喜多陽子（オーボエ）、宮園智子（リュート）、岩田悠花・樫原典子・廣末真也・亀之原佑介（ヴァイオリン）、白濱茂樹・為国健太・中嶋卓（チェロ）、白濱美佐子・城輝昭（ヴィオラ・ダ・ガンバ）、阿部等（パーカッション）、中山美智子・田中美和子・中原典子・酒井寿喜・藤原佐保子・富山直美・市橋なぎさ・高嶋みゆき・長野公宣・岩重健一（声楽）、岩田耕作（チェンバロ・指揮）

２日間のセミナーを受講して団結した仲間による演奏です。2015年のトリを務めます。華やかなステージにどうぞご期待ください。
※会場を円形ホールに移して演奏を行います。

古楽器の展示と楽譜・CD等の即売

2015年10月23日（金）あいれふ10Fホワイエにて
10月24日（土）、25日（日）アクロス福岡内にて

全国各地より古楽器の製作者（マイスター）が、楽器を携えここに集結。製作者と直接話をできるチャンスです。どうぞお立ち寄りください。

◆edition offenburg（ドイツ）……楽譜
◆ユニバーサル（東京）……CD
◆鈴木楽器（静岡）……リコーダー
◆バロック木管図書館（神奈川）……バロックオーボエ等
◆Flaut traverso Workshop Fukunaga（熊本）……フラウト・トラヴェルソ
◆ローランド（福岡）……電子チェンバロ等
◆YAMAHA（福岡）……ガット弦等
※アクロス福岡地下1階に店舗がございます。

予告

2016年の音楽祭は、「爛熟のパリ・ロココ」をテーマに10月8日（土）－10日（月・祝）に開催します！

室内楽コンサート
「テレマンinパリ～大人気作曲家が旅先で見たもの～」
2016年10月8日（土）　あいれふホール
出演：寺神戸亮・戸田薫（バロック・ヴァイオリン）、上村かおり（ヴィオラ・ダ・ガンバ）、前田りり子（フラウト・トラヴェルソ）、曽根麻矢子（チェンバロ）

ストラディヴァリア・ナント・バロック・アンサンブル
2016年10月9日（日）　福岡シンフォニーホール
指揮：ダニエル・キュイエ

マスタークラス／古楽セミナー
2016年10月8日（土）、9日（日）
講師：寺神戸亮（バロック・ヴァイオリン）、上村かおり（ヴィオラ・ダ・ガンバ）、前田りり子（フラウト・トラヴェルソ）、太田光子（リコーダー）、曽根麻矢子（チェンバロ）、岩田耕作（アンサンブル）　他

古楽ステージ
2016年10月9日（日）、10日（月・祝）

※この情報は、2015年10月10日現在のものです。内容が変更になる場合がございます。
最新の情報は、音楽祭ホームページでご確認ください。

新・福岡古楽音楽祭2015は、以下のメンバーを中心に運営の準備を進めてきました。
村山暁、梅津教孝、樫原典子、小牧達彦、左座武彦、志村聖子、須佐菜々美、添嶋麻里、中山美智子、前田明子、森宗里紗、三久保佐和子、村岡彩子

サポーター募集中！

来年度の音楽祭に向けて、事前準備から当日の運営業務に参加して下さる方を募集しております。
ご関心がある方はぜひ事務局へお問い合わせ下さい。

［お問合せ先］新・福岡古楽音楽祭 事務局
〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡2階　（公財）アクロス福岡 事業部 企画グループ内
メール kogaku.fes@gmail.com　HP http://www.kogaku.net/　電話 092-725-9327